

バンクーバー便り10

バンクーバー時間：2023年7月23日(日)午前9時15分

日本時間：2023年7月24日(月)午前1時15分

皆さんこんにちは。今回は『晩香坡今昔物語』をご紹介します。

夏の短いこの時期、戦前カナダ政府が日系カナダ人に行った非人道的措置を風化させないために、バンクーバー日本語学校がささやかな警鐘として行っている事業に『日系カナダ人地区史跡めぐり～パウエル街 街歩き』というものがあります。新移民の知人に紹介され、夫婦二人で参加しました。パウエル街は戦前大いに繁栄した日本人街でしたが、カナダ政府の誤った政策で多くの日系人がこの地から追放され、現在では廃墟のようになっています。この中に日本語学校のクラシックな建物が残り、現在も土曜日の日本語学校、「こどもの国」という保育施設、地域住民の会合などに利用されています。カナダ政府が戦前の失策に対する補償金や寄付金でこの施設の改修や拡張がされ立派な建築物になっていますが、多数の教室や体育館、そして多くの図書を所蔵する図書室も、利用する者も少なく静かな空間に漂っていました。

ボランティアの日系カナダ青年がパウエル街を案内してくれました。この若者は、古き時代の日本青年を思わせ、礼儀正しく言葉遣いは丁寧で、さわやかな気持ちになりました。真面目な青年は少なくとも日英のバイリンガルのようで、英語の解説文を手にして流暢な日本語で解説をしてくれました。ツアーは全行程2時間弱で、アレキサンダー街路～ゴア大通り～パウエル街路～ジャクソン大通りと数ブロックの街並みを巡る旅でした。映画にもなりました野球チーム「バンクーバー朝日」が練習場に使っていたオープンハイマー公園と仏教会を横目に見て出発点の学校に戻りました。この界限にはかつての日系カナダ人の活気と無念が渦巻いていました。

現在はその賑わいは消え、ゴーストタウンのように静まり返っています。日系人に代わり街路にも公園にも路上生活者があふれ、殊にバンクーバーではマリファナが解禁されているため「薬中」の人達も混ざっています。また、ウナギの寝床のように細長く3階建ての木造建物に23室が設けられた建物は、戦前は材木業を営む裕福な日系人が所有しており、そこで多くの日本人労働者が共同生活をしていました。現在ではLGBTQ+の人達が共同生活をする建物に変身して、窓にはシンボルのレインボーカラーが掛けてありました。

日系カナダの人達が、この地を追われることなく今も生活を続けていたならば、とifのない歴史に空想をしたくもなりました。昔、日本語や英語が飛びかった街は、今は沈黙と薬物とジェンダー創世の街に変化していました。無常観にさいなまれた重い心とともに帰宅しました。

《1906年設立時の日本語学校》



《1900年初頭の小学校授業風景》



《現在のバンクーバー日本語学校》



《バンクーバー市の遺産建築指定証》



《LGBTQ+の人達の集合住宅になった日系建築》



《日本の富豪が戦前建築した商業ビル》



